

◆ 平成30年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 荒川流域ネットワーク

21A-27

代表者：代表理事 鈴木勝行

URL : <http://arakawanet-ryuiki.net>

1. 活動が必要とされた状況

2006年から激増した東京湾から遡上してくる天然アユを、入間川水系の各河川の清流域まで遡上させるため、2013年から4年間で入間川にある8ヶ所の堰・床固め工に魚道や遡上補助施設が設置された。設置された魚道を魚が遡上しているかどうかの効果検証を行うことが必要となった。



川越橋上流での稚アユの標識放流作業の様子（H30年4月30日）

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

3月25日から5月27日まで菅間堰の魚道の下で四つ手網を使って魚類調査を行うとともに、仮設魚道の設置や魚道流量の管理作業も行った。3月21日から4月4日まで4回の標識作業で2,369尾、4月31日に58名で標識作業を行い、11,626尾を入間川に放流し、同時に2,690尾を越辺川の出丸堰の魚道の下流に放流した。標識放流後5月6日までビデオカメラを使った菅間堰、浅間堰、出丸堰の魚道での遡上調査も継続して実施した。



中山堰下での投網による標識アユの遡上調査の様子（H30年7月1日）

関係する3漁協のアユ漁解禁に合わせて、6月1日から10月14日まで入間川、都幾川、越辺川、高麗川、小畔川の5つの河川で、友釣り、投網、刺し網を使った調査を行った。調査回数は、合計26回。調査参加者は延べ人数159名だった。地曳網を使った参加型の調査も3回実施した。漁協とアユ捕りの人に標識アユの再捕協力と情報提供をお願いした。

3. 活動の成果

1. 菅間堰と浅間堰の魚道の流量管理作業と遡上補助施設の設置により、アユの遡上環境を改善することができた。
2. 菅間堰下流での四つ手網を使った調査で、堰下流へ遡上してくる天然アユの実態を不十分ではあるが把握することができた。
3. 入間川の遡上調査の結果、田島屋堰下流で19尾、笹井堰上流で5尾の標識アユが捕獲され、標識放流したアユの一部は狭山市域の5つの魚道を遡上したことが確認できた。
4. 越辺川での調査で、中山堰下流で5尾、矢来堰下流で1尾の標識アユを再捕し、標識放流したアユの多くは、出丸堰の魚道を遡上し、魚道のない中山堰下流に滞留したことが分かった。

4. 今後に残された課題

1. 落差が発生し、流速が速くなるため、改善が必要な菅間堰や浅間堰の魚道は、本格的な改修が行われるまで、今後とも流量調整や遡上補助施設の設置等の活動を堰所有者の了解を得ながら行っていく必要がある。
2. 入間川では、今後も遡上調査を行いながら、上奥富堰、田島屋堰、笹井堰に設置された魚道の課題を解消し、遡上効果を上げていく必要がある。
3. 東京湾から入間川水系の各河川に遡上してくる天然アユを大幅に増やす必要がある。
4. 以上のことを関係漁協と連携しながら、実施していく必要がある。